

高齢化は人類史上の大津波であるとの認識を示し、ケアサイクルを提唱されました。日本看護協会長の坂本すが氏は、看護師活動拡大への期待を語られました。櫃本真幸氏(愛媛大



会場風景

学総合診療サポートセンター長)は、生活を分断しない医療を力説し、同様な趣旨で私も会長講演で、地域が協働で支える医療を提唱しました。郡司篤晃氏(聖学院大教授)のヘルスリテラシーの教育講演や、信友浩一氏(九大名誉教授)小野ミツ氏(九大教授)によるストーリーを創る在宅末期医療のシンポジウムも、大変に印象的でした。市民公開講座は、3人の有名志士をデモ患者に立て、地域医療へのICT普及を図る愉快な寸劇で大好評でした。招待講演は、直木賞を最長齢65歳で受賞された古川 薫様から、幕末維新を推し進めた“狂気”を例えに、医療変革に必要なDämonischを教わりました。大変に充実した2日間になりました。関係各位のご協力に心から感謝を申し上げます。

全員懇親会は、壇ノ浦に入水した安徳天皇を奉り、幕末は奇兵隊屯所になった赤間神宮の境内参道上で行い、平家物語の物悲しい語りや琵琶の音や、悲壮な奇兵隊を演ずる市民ミュージカルの熱演に、参加者は下関での思い出をいっぱい作られたと思います。

第11回石川支部学術集会

学術集会会長：金沢赤十字病院副院長 西村元一



会場風景

2013年10月12日(土)、石川県七尾市の七尾美術館アートホールにおいて、「地域における医療連携」をメインテーマに、第11回石川支部学術集会を開催いたしました。当日は、

石川県全域から医療従事者79名の参加がありました。

特別講演では、社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院より「安心・信頼の連携をめざして」と題し4名の方々にご講演いただきました。

①けいじゅサービスセンターについて

地域連携担当課長 荒木 千保子 先生

②地域連携活動について

地域連携担当係長 藤澤 豊 先生

③地域連携とコールセンター

コールセンター担当課長 寺尾美樹 先生

④二人主治医制のススメ

董仙会本部所属(循環器担当事務) 細川勝之 先生
病院・施設・家庭が連携し患者と家族が安心できる地域医療活動の取り組みについてご紹介いただきました。日々の業務でも関わりのある方々が講師であり、参加者からの意見もより具体的なものが多く出されました。

また、一般演題は6題あり、医師、看護師、言語聴覚士及びNST専門療法士などから、糖尿病治療における疾病管理MAPの効果や地域医療連携システムの活用、訪問看護の現状と課題、地域医療支援病院承認を目指して、摂食・嚥下障害者への対応、医科歯科連携などの取り組みについて発表があり、予定時間を越えて活発な意見交換が行われました。

本学術集会の開催にあたり、ご協力ご支援いただきました皆様方に心より感謝申し上げます、開催の報告とさせていただきます。

第7回三重県支部学術集会

学術集会会長：鈴鹿中央総合病院院長 浜田正行

2013年10月19日(土)、国立病院機構三重中央医療センター、研修棟会議室において第7回日本医療マネジメント学会三重県支部学術集会を開催しました。今回は「患者と医療者にやさしい医療安全をめざして」をメインテーマに鈴鹿中央総合病院、浜田正行先生を学術集会会長として開催されました。県内の医療施設から95名の参加があり、16題の一般演題発表と倉敷中央病院、医療安全管理室の米井昭智先生による「医療安全研修会の実践」の特別講演が行われました。一般演題では電子カルテにおけるクリティカルパスの運用や地域における多職種の連携、医療安全における取り組み等が紹介され活発な討論が行われました。特別講演では医療安全研修会における指さし呼称などの実例が動画を用いて紹介され効率の良い医療安全研修について多くの情報を得ることができました。最後に本会が盛会のうちに終了できましたことを、ご協力いただきました関係各位に深謝申し上げます。

分科会開催案内

2013年度 医療連携分科会

テーマ：2014年診療報酬改定と地域連携

団塊の世代700万人が後期高齢者を迎える2025年を目前にして、医療と介護のあるべき姿への改革が求められています。目指すべきあるべき姿は病床機能分化と連携、医療と介護の連携に他なりません。日本医療マネジメント学会医療連携分科会では、今回、「2014年診療報酬改定と地域連携」をテーマに、識者のみなさまにそれぞれの立場から、2014年診療報酬改定を展望して頂きたいと思っております。

関係者の多数のご参加をお待ちします。